

望岳山荘

いって



中嶋 嶺雄

才能教育研究会の第五十  
九回夏期学校が去る七月二  
十九日から八月一日まで、  
長野県松本文化会館を中心  
に市内の各会場で開かれ  
た。全国各地から約千五百  
名の生徒に、保護者の  
方々、指導者やスタッフを  
加えると総勢約三千人が集  
まったことになる。開会式  
には菅谷昭松本市長も出席  
され、この七月に才能教育  
研究会会長の任についた私

が就任挨拶を兼ねて開会を  
宣言した。来年四月には第  
十五回世界スズキ大会がメ  
ルボルンで開かれることも  
あって、オーストラリアを  
はじめ世界各国からも約百  
五十名の外国人参加者があ  
り、国際色も豊かであつ  
た。当日夜のゲストコンサ  
ートは主に国際スズキ・メ  
ソード音楽院  
の教授陣によ  
る演奏であつ  
たが、東京で  
も演奏機会が稀なほど難し  
いチャイコフスキーのピア  
ノ三重奏曲「ある偉大な芸  
術家の思い出のために」の  
ような大曲も実に見事な演  
奏ぶり、子どもさんたち  
も夜九時まで皆静かに、し  
っかりと聴き入っていた。  
信州の夏の夜の素晴らしい  
教育現場であつた。  
松本に生まれ育つた私

# スズキ・メソードと時代の要請

松本市は全国の都市に先駆  
けて国際化されてきていた  
のである。いまや全世界に  
約四十万人の生徒を擁する  
スズキ・メソードの広がり  
によって、MATSUMO  
TOの名前も世界的になつ  
ているといえよう。  
ところで、戦後日本の懸  
案であつた教育基本法は去  
る二〇〇六年十二月に約六

は、毎年夏に帰省すると、  
小さなヴァイオリン・ケー  
スを手にした子どもさんた  
ちとお母さんを駅や街角で  
よく見かけることがあつ  
た。ほつした光景を私はい  
つも微笑ましく思っていた  
のだが、外国からの参加者  
も多い才能教育研究会の恒  
例の夏期学校のおかげで、

十年ぶりに改正されたが、  
その第十一条には「幼児期  
の教育は、生涯にわたる人  
格形成の基礎を培う重要な  
ものである」と明記され  
た。さらに内閣の教育再生  
会議はその最終報告(二〇  
〇八年一月)でも「幼児教  
育の重視」を強く訴えてい  
て、幼児期の子どものたちの

前に「義務教育まえのすべ  
ての子どものよい成長のた  
めに全精力を注いでほし  
い」(鈴木鎮一著『愛に生  
きる』才能は生まれつきで  
はない)、講談社現代新  
書、一九六六年初版)と唱  
えていた幼児教育の重要性  
が、今日の教育崩壊に直面  
してあらためて認識されつ  
つあるのだと  
いつてもよい  
であろう。

能力を育てることの大切さ  
については、こころ、二年  
政府や文部科学省もようや  
く気づきはじめている。私  
自身は終戦直後の一九四七  
(昭和二十二)年から才能  
教育研究会の前身である松  
本音楽院で鈴木鎮一先生に  
直接ヴァイオリンを教えて  
いただいたのだが、その鈴  
木先生がもう半世紀以上も

た幼児教育は、幼児期から  
の外国語教育、とくに英語  
の早期教育とも大きなつな  
がりがあり、このことは最  
近の脳科学の発達によつて  
も証明されつつある。わが  
国でもようやく小学校に英  
語が導入されることになつ  
たが、この点でもまさにス  
ズキ・メソードの先見性が  
教育の現場に反映されつつ

あるといつてよいのではな  
いか。  
才能教育研究会はこのと  
ころ、前任会長の豊田耕児  
先生のご指導で子どもたち  
の音楽や合奏での音楽的資  
質が著しく向上してきてい  
る。このような時期に、鈴  
木鎮一先生が後継者として  
選ばれた国際的芸術家・豊  
田耕児前会長の後を受けて  
私が才能教育研究会会長の  
任を負うこととなり、大き  
な責任を感じているが、豊  
かな教養を身につけた人材  
を一人でも多く育むため  
も、地元松本市民の皆様  
のご支援ご協力をお願いし  
つ、これからのグローバル  
化の時代にふさわしい幼児  
教育の新しい地平を求めて  
ゆきたいと思つている。  
(国際教養大学理事長・学  
長 松本市出身)